



校報 絆

(きずな)〈5月号〉

〈校訓〉 「強く・正しく・仲よく」

紀の川市立安楽川小学校

〈育てたい児童の姿〉

夢と希望を持ち、自ら進んで学習に取り組む子供

令和2年5月1日

自分も友達も大切にし、思いやりのある子供

文責:校長 原 寿宏

心身ともにたくましく、ねばり強く挑戦し続ける子供

「笑顔」と「元気」いっぱいの安楽川小学校に！

新型コロナ禍、3月初旬からの臨時休業が続く中、子供たちの笑顔と元気な声のない、ひっそりとした学校に、私たち教職員も心を痛めています。本来なら1年生も学校生活に少し慣れてきているころだと思いますが、度重なる学校再開の延期で、そのたびに子供たちも保護者の皆さんもがっかりされていることと思います。しかし、「そういう状況だからこそ、前を向いて進んでいかなければいけないのだ」と心を奮い立たせてくださっているのだろうと思います。そうした気持ちに、教職員一同、真摯に向き合い、今できることを精一杯考えてまいりたいと思います。まだまだ、予断の許さない状況です。ご自愛いただくとともに、引き続き、日々の感染防止に、ご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

さて、私も、こうした状況だからこそあえて、「こんな学校にしたい」ということをお話させていただきたいと思います。

4月号で「めざす学校の姿」として、「地域と共に歩む学校」を掲げ、そして、「みんなでつくる みんなの“あら小”」を、保護者・地域の皆さんとの合い言葉にしたいということを書かせていただきました。私は、校長として本校で3校目となりますが、常にこのことをモットーに、いわゆる、「コミュニティ・スクール」の理念を学校経営の基盤として取り組んでまいりました。子供たちが自慢したくなる学校、皆さんから信頼される学校、そして地域に貢献できる学校にすべく取り組んでまいります。ご協力お願いいたします。

現在、まだ先のことは見通せませんが、保護者の皆さんや地域の方々に気軽に学校にお越しいただける機会をどんどんつくっていきたくと考えています。また、これまで以上に子供たちの豊かな育ちに関わっていただきたいとも思っています。他方、子供たちには、「地域の皆さんの温かいまなざしに包まれ成長できている」ということを、しっかり伝えていきたい。そのためにも、保護者や地域の皆さんと子供たちとの出会いの場を“演出”していければと思います。

そして、そうした出会いをより豊かなものにする上で重要なのが、「あいさつ」です。「おはよう（ございます）」「こんにちは」「ただいま」「ありがとう（ございます）」など、誰にでも進んであいさつのできる子供になってもらいたいと思います。

ということで、私は子供たちに「あいさつ＋ハイタッチ宣言」をします。今はまだ無理ですが、コロナが落ち着いてきたら、登下校時に元気なあいさつとハイタッチをいいたいと思います。お子さんにそう伝えておいてください。そして、日常のごく自然な光景として定着していくことを期待しています。

学校の取組や、子供たちの頑張る姿を紹介することを通じ、学校と保護者の皆様との絆、親子の絆、さらには保護者同士・子供同士の絆、様々な絆が深まりますことを願いつつ、月1回のペースを基本に情報をお届けしてまいります。

今後とも、「笑顔」と「元気」いっぱいの素敵な安楽川小学校にしていくために、ご協力よろしくお願いいたします。

